

2021 年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2022年 3月 31日
研究・研修課題名	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士資格更新のための研修補助
研究・研修組織名(所属)	リハビリテーション部
研究・研修責任者名(所属)	熊谷英岳(リハビリテーション部)
研究・研修実施者名(所属)	熊谷英岳(リハビリテーション部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	熊谷英岳(リハビリテーション部)
学会名(会期・場所)、認定名等	第26・27回 合同学術大会 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
演題名・認証交付元等	日本摂食嚥下リハビリテーション学会
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容

①目的

日本摂食嚥下リハビリテーション学会は、「摂食嚥下リハビリテーション学に関わる会員の能力の向上を図り、会員相互並びに国内外の関連団体及び一般市民との交流を深め、摂食嚥下リハビリテーションの啓発、普及を行う」という理念を積極的に具現化するため、摂食嚥下リハビリテーションの基本的な事項と必要な技能を修得した学会員を対象とする認定士制度を設けている。本認定士資格は5年毎の更新が必要であり、その要件に日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会への参加が必須項目として明記されている。本研修の目的は、本院の認定士資格を有する言語聴覚士が指定された学会へ参加し、資格更新を目指すものである。

②方法

認定士資格を取得している本院言語聴覚士1名が2021年8月19日～8月21日にオンライン上で開催される、第26・27回合同学術大会日本摂食嚥下リハビリテーション学会に参加し、認定士資格更新のための単位を取得する。

③成果

学会では摂食嚥下リハビリテーションに関わる最新の内容が多彩に取り上げられ、第2回嚥下サミットと併催だったこともあり、海外での新たな知見の報告も多く充実した内容であった。

教育講演では、サルコペニアと嚥下障害の関係、認知症やパーキンソン病などの変性疾患による嚥下障害の特徴や対応、補綴的対応の嚥下機能への影響、嚥下マノメトリーや嚥下CTといった最新の評価手法やそこから得られた知見などが報告された。特に義歯装着による嚥下への影響については、当院で関わる多くの嚥下障害患者の臨床においても活用できる有益な知見であった。

シンポジウム・パネルディスカッションでは、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査の見方からリハビリテーションに繋げる思考過程、口腔機能の評価や食事の際の姿勢調整、嚥下障害者に対する栄養管理の要点、世界における嚥下食などについて多職種の視点で実践的な議論が行われた。嚥下リハビリテーションの基本的な対応の一つである姿勢調整の理論を再確認でき、また病期や疾患に応じた栄養管理についての知見は当院の摂食嚥下障害患者への対応に参考にできる内容であった。

(様式1)

海外からの報告の中に ICU における摂食嚥下リハビリテーションがあり、今後当院において早期からの嚥下リハビリテーション介入を検討するうえで参考になる内容であった。

本学会の参加により、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 1 名が更新に必要なポイントのうち 80 単位を取得することができた。また更新要件には日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会への参加が含まれておりこの要件については満たすことができた。資格更新には 5 年以内に 200 単位の取得が必要であり、引き続き学会だけでなく単位申請が可能な研修会の受講や e ラーニング学習などを進めていくとともに、学会や研修を通じて常に最新の知見を患者に提供できるよう努めていく。